令和５年度　重点研究 全体計画

1　研究主題

主体的で対話的に学ぶ子どもの育成

～自分の思いや考えを表現し、認め合い・学び合う姿をめざして～

2　研究教科
国語

3　研究主題について

＜学校教育目標＞

自ら学び　やさしい心で　たくましく生きる　子ども

健康な心と体をもち　自分も友達も大切にしながら自らの言葉で伝え行動できる　たくましい子どもを育てます

主体的で対話的に学ぶ子どもの育成

～自分の思いや考えを表現し、認め合い・学び合う姿をめざして

【低学年ブロックテーマ】
自分の思いや考えをもち、相手に伝えようとする子

【中学年ブロックテーマ】
自分の思いや考えをまとめ、相手と伝え合い、意見を交換する子

【高学年ブロックテーマ】
自分の思いや考えを広げ、すすんで相手と伝え合い意見を交換する子

今日的課題から

GIGA スクール構想による一人一台端末環境が実現された。これまでの教育実践と ICT をうまく組み合わせて活用することで、学習活動の一層の充実や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に役立てられている。情報化の発展に伴い、知りたいことはネットで調べればすぐに知ることができるものが多い。分からない言葉があったら、物事の前後から意味を推測して自分で考えることや、辞書を使って調べることは少なくなってきている。変化が大きく、先を予測することがますます困難となることが予想される現代において、「何を学ぶのか」「何のために学ぶのか」「どのように学ぶのか」について、子どもたちが自ら問いを見出し、最後まで粘り強く課題解決に向かって主体的に学ぶことで得た知識や経験を活用したり伝えたりする力はより一層大切になってくると考える。また、他者と協働しながら課題を解決していくことで、自分の考えを広げたり、深めたりすることができるのではないだろうか。

学校教育目標の具現化から

本校では、上記の学校教育目標を掲げ、一人ひとりの知・徳・体のバランスよく備えた子どもの育成を目指している。主体的に学ぶには、何のために学ぶのか、子どもたち自身が目的意識をもち、粘り強く学ぶことが大切である。自分に必要な力を自覚し、その力を身に付けていくために子どもたちがすすんで学ぶことは、これから自分で考え行動して生きていくうえで必要な力である。また、学んだことや考えたことを、友達と伝え合うことで、自分では気付けなかった考えに触れたり、友達と学び合う良さに触れたりすることができるため、自分の考えも大切にしながら友達と協働的に学ぶことにつながる。対話とは、友達や教師とのやり取りだけではなく、自分とのやり取り、作者や作品とのやり取りを通して、より深い学びが形成されていくと考える。

また、学習課題を子どもたちと共有し、「何ができるようになったのか」「なぜできたのか」「次は何ができるようになると良いのか」など、振り返りを大切にすることで学びの自覚化に繋げる。振り返ったことを次の１時間や単元の目標や問いに繋げていくことで主体的に「自ら学ぶ」姿を育むことができるのではないかと考える。

児童の実態から

昨年度は今年度同様、「主体的で対話的に学ぶ子どもの育成」という研究主題のもと国語科で研究を進めた。研究一年目は、身に付けさせたい力を明確にし、単元目標や目的意識・相手意識を子どもたちと一緒に共有する授業づくりに取り組んできた。目標に向かってじっくり自分の課題と向き合う子や、友達の意見を聞くことで解決に向かう子、対話を通して自分の考えが整理できた子など様々な学びの姿が見られた。また、ロイロノートを適宜活用することで、文章を推敲したり、自分の話し方を振り返ったりするなど自己の学びに活用していた。

令和４年度　児童学校評価アンケートでは、以下の結果が分かった。

質問	結果
・「分かったことやできるようになったことに、喜びを感じながら、学習に取り組んでいるか。」 ・「よく考えながら学習に取り組んでいるか。」	８割近くの児童が「とてもそう思う」「そう思う」と答えている。
学校生活の中で、自分の思いや考えをみんなに話して（表現して）いるか。」	「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた児童が令和３年度に比べて増えた。

学習に前向きに取り組み、分かることやできることが楽しいと感じながら学習している。一方で、友達との関わりや自分の思いや考えを表現する場面を増やしていく必要があると考える。対話的な学びに大きくつながる結果といえる。

以上のことから、主体的で対話的に学ぶ子どもの育成に向けて、さらなる授業改善に取り組んでいく。

4　研究仮説

児童一人ひとりにとって必要感のある学習課題を設定し、どのような授業デザインや教師の手立てが有効であるかということを、児童の具体の姿を根拠として検討、検証することで主体的・対話的に学ぶ子どもの育成が実現できるのではないだろうか。

5　研究内容

○　指導法の工夫・改善

主体的・対話的に学ぶための単元構想と確かな学力の定着を図る授業づくり

①単元導入時には、見通しをもって学習を進めることができるように、めあてや学習活動、学習計画などを児童と共有する。

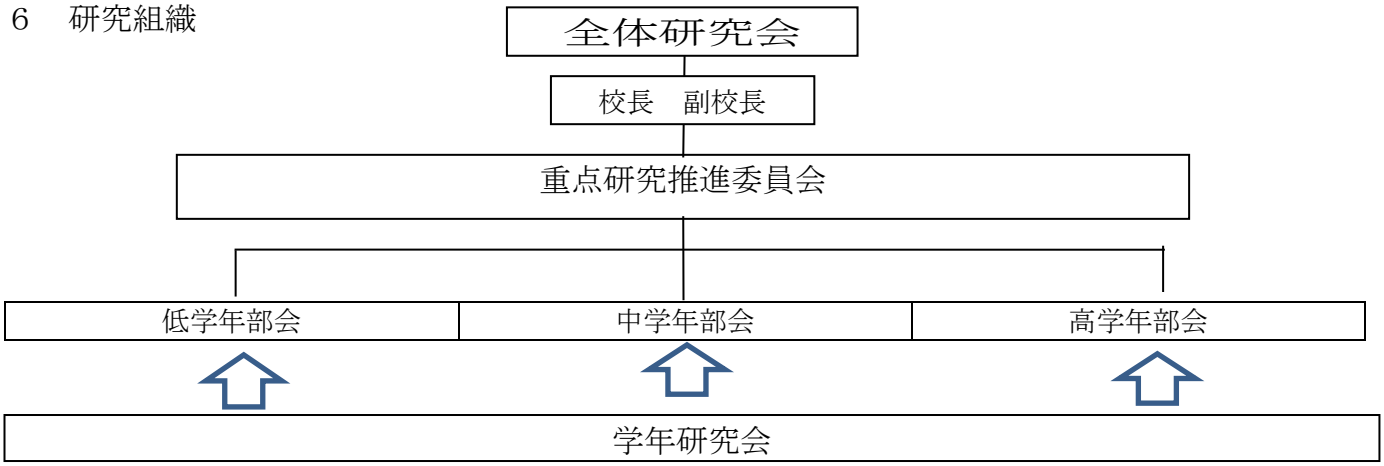
②児童が自分の伸びや学びの状況を自覚できるように、評価規準をもとに毎時間や単元終末に振り返りを行う。次時の学習活動につなげたり、他教科や実生活にいかせようにする。

③児童が自分の考えや思いを自信をもって表現できるように、学習の中で対話場面を増やす。

④児童の思いを大切にした相手意識、目的意識など学習課題を設定する。

⑤身に付けさせたい力を明確にした言語活動、教材の分析

6　研究組織



7　研究方法

○各部会に分かれて研究を行う。※７学年や個別支援級は各学年に分かれる。

○一人一本の授業提案で指導や評価の在り方を検証する。（一斉授業研がある場合は重点研究と置き換えることができる。）

○指導案作りや授業の工夫・改善は学年や部会で協力して行う。

○先行授業を行ったり、互いに授業を見合ったりして指導に役立てていく。

○事前の指導案検討会、事後研究協議会を通して研究を深める。

○部会に分かれて事後の研究協議会を行い、各部会で話し合ったことを全体会で共有する。

○部会検討会における司会と記録は各部会で担当を決める。

○参観する時は、対象児童を決め、変化や思考を捉えやすくするとよい。協議がより深まる。

○講師に来ていただき指導講評を受ける。

○授業後は紀要を作成する。研究のまとめとして紀要を年度末に配布する。

８　協議会・参観について

～子どもを見る目を鍛え授業力向上につなげるために～

指導案検討

めざす子どもの姿を明確化＆共有する。

（〇〇の姿が見られれば、指導事項にある〇〇の力をつけたといえるのでは。
主体的・対話的な姿といえるのではないか。）

・身に付けさせたい力＝指導事項に照らし合わせる。
・評価規準・評価場面・評価方法など見取りの視点も明確化＆共有

授業

重点的に見取る児童（ペア・グループ）を決めて、学びのプロセスを見取る。

研究協議会

子どもの実際の姿から授業を振り返る。

・どんな言葉の力がついたのか
・子どもの学びのプロセスや変化

日々の授業にいかす

９　研究日程

６月３０日（金）	第１回授業研究会
９月２８日（木）	第２回授業研究会
１０月１３日（金）	第３回授業研究会
１２月１日（金）	第４回授業研究会
１月２６日（金）	第５回授業研究会